

# IPA 情報発信第 166 号（2018 年 2 月）

2018 年 3 月 1 日

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

理事長 富田 達夫

## <IPA 情報発信第 166 号の内容>

### 今月のトピックス

#### 1. 産業サイバーセキュリティの中核人材育成プログラム、上級演習「アドバンス」の開始に伴い秋葉原 UDX に研修施設をオープン

2 月より上級演習「アドバンス」を開始することに伴い、新たに秋葉原 UDX（東京都千代田区）に研修施設をオープンしました。秋葉原 UDX には、製造業の検査システムや鉄鋼業の圧延システム等、各業界のシステムを想定した模擬システムを導入しました。

#### 2. 「MITOU2017 Demo Day／2017 年度（第 24 回）未踏事業成果報告会」を開催

本報告会では、「2017 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業」で採択され、約 8 ヶ月をかけて取り組んできた 20 件のプロジェクトの成果について、各クリエイターから発表があり、発表後は来場者との質疑応答が活発に行われました。今年も IoT、AI、ロボット等の技術を取り入れ、さまざまな分野で実用が期待されるプロダクトの数々が登場しました。

### I. 安全な IT 社会の実現

1. 「ICSCoE REPORT」vol. 2 を発行
2. 産業サイバーセキュリティに関する業界別トレーニングを実施
3. 学習ツール「5分でできる！情報セキュリティポイント学習」新版を発表
4. 脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」と脆弱性対策情報共有フレームワーク「MyJVN」の機能強化版を公開
5. ENISA 発行文書の概訳「スマート空港のセキュリティ」を公開
6. 重要なセキュリティ情報（2 月）

### II. IT システムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

1. 「ソフトウェアジャパン 2018」への出展
2. 「ET・IoT Technology 名古屋」を共催
3. 「システム再構築を成功に導くユーザガイド」第 2 版を公開
4. 「デジタル変革に向けた IT モダナイゼーション企画のポイント集」を公開
5. 「組込みソフトウェア開発向けコーディング作法ガイド ESCR [C 言語版] Ver. 3.0」を公開
6. 「先進的な設計・検証技術の適用事例報告書 2017 年度版」を公開
7. SEC セミナー開催報告（2 月）と SEC セミナー開催案内（3 月）

### Ⅲ. 未来の IT 社会を担う人材の育成とビジネス支援・技術開発促進

1. アジア共通統一試験推進コア人材育成事業「Top Gun プログラム」を実施
2. 「第三回地方版 IoT 推進ラボ担当者会議」を開催
3. 「日経 BP IoT Japan 東京 2018」への出展

## 今月のトピックス

### 1. 産業サイバーセキュリティの中核人材育成プログラム、上級演習「アドバンス」の開始に伴い秋葉原 UDX に研修施設をオープン

(担当：産業サイバーセキュリティセンター)

IPA は、2 月より産業サイバーセキュリティの中核人材育成プログラムの上級演習（アドバンス）を開始することに伴い、新たに秋葉原 UDX（東京都千代田区）に研修施設をオープンしました。秋葉原 UDX には、製造業の検査システムや鉄鋼業の圧延システム等、各業界のシステムを想定した模擬システムを導入しました。

また、2 月 8 日（木）に秋葉原 UDX で、オープニング・オリエンテーションを実施しました。当日は、模擬システムを使い、製造業や鉄鋼業のサイバーセキュリティをテーマとするデモを行い、上級演習の講師や模擬システムを納品したベンダーが、今後の上級演習や卒業プロジェクトを見据えた熱心な受講生からの質問に応じました。経済産業省からは大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官の伊東寛氏を招き、「良い環境・良い先生・本人の熱意の三拍子が揃っている。技術の知識だけに終始せず、知恵に優れ、人脈も豊か、そんな“サイバーオフィサー”を目指し、ラストスパートをかけてほしい。」とのご挨拶をいただきました。

### 2. 「MITOU2017 Demo Day／2017 年度（第 24 回）未踏事業成果報告会」を開催

(担当：イノベーション人材センター)

IPA は、「2017 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業」で採択したプロジェクトの成果報告会である「MITOU2017 Demo Day」を 2 月 10 日（土）～11 日（日）に富士ソフトアキバプラザ（東京都千代田区）で開催しました。

本報告会では、約 8 ヶ月をかけて取り組んできた 20 件のプロジェクトの成果について、各クリエイターから発表があり、発表後は来場者との質疑応答が活発に行われました。

今年も IoT、AI、ロボット等の技術を取り入れ、さまざまな分野で実用が期待されるプロダクトの数々が登場しました。また、データセンター等で高額なハードウェアを使って制御されている超高速通信を、ソフトウェアで柔軟かつ効率的に制御できるようにした高性能通信基盤の開発や、物体に対する光の超短時間の反応から、その材質や密度の違いまでもが計測できるデバイスの開発といった技術的難易度の高い開発に挑んだクリエイターの発表は、多くの聴衆の関心を集めました。

本報告会には、2 日間で延べ 200 名程度の参加があり、インターネットを使ったライブ配信には、2 日間で延べ 2,700 件以上のアクセスがありました。

今回の成果報告会で発表された各プロジェクトについて、プロジェクトマネージャーや有識者等で審査を行い、特に優れた成果を挙げたクリエイターを「未踏スーパークリエイター」に認定します。未踏スーパークリエイターの発表は今年6月頃を予定しています。

「MITOU2017 Demo Day」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2017/seikahoukoku24th.html>

## **I. 安全な IT 社会の実現**

### **1. 「ICSCoE REPORT」 vol. 2 を発行**

(担当：産業サイバーセキュリティセンター)

IPA は、「産業サイバーセキュリティセンター」の活動を紹介する広報誌「ICSCoE REPORT」 vol. 2 を 2 月 23 日（金）に発行しました。「ICSCoE Report」は、社会インフラや産業基盤のサイバーセキュリティに関する人材育成等に取り組む産業サイバーセキュリティセンター（ICSCoE）の活動をご紹介するレポートです。

「ICSCoE REPORT」 vol. 2 の主な掲載内容は以下のとおりです。

- ・ 世耕経済産業大臣の 2018 年 年頭所感を受けて
- ・ 第一期中核人材育成プログラム、アドバンスへ  
～ 秋葉原 UDX における上級演習もスタート ～
- ・ 中核人材育成プログラム 受講者ロングインタビュー
- ・ 世界の中核拠点を目指して ～ICSCoE の海外連携～
- ・ 短期プログラム 2017 年 10 月・11 月

「ICSCoE REPORT」 vol. 2 の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/icscocoe/report/index.html>

### **2. 産業サイバーセキュリティに関する業界別トレーニングを実施**

(担当：産業サイバーセキュリティセンター)

IPA は、2 月 16 日（金）～17 日（土）に金属・石油精製・素材産業（PA<sup>1</sup>）業界を対象に初めてとなる、CISO/CIO 補佐向けの業界別トレーニングを実施しました。

業界別トレーニングでは、2017 年 8 月より、業界に特化した短期プログラムを提供しており、第一弾は、電力業界、不動産・ビル管理業界（ディベロッパ

---

<sup>1</sup> PA: プロセスオートメーション

一) 向けに、第二弾は、自動車業界、FA<sup>2</sup>業界向けに実施し、今回が第三弾となります。

業界の最新動向、業界別に考慮すべきセキュリティ要件及び安全性要件等を織り込んだシナリオに基づく実践的演習が中心で、受講者からは、「同業種の方とのグループワークを通じて、今後も相談し合えるような人脈形成に役立った」などの声が寄せられました。

「業界別 短期プログラム」の詳細については、次の URL をご覧ください。

[https://www.ipa.go.jp/icscoe/program/short/specific\\_industries/201802.html](https://www.ipa.go.jp/icscoe/program/short/specific_industries/201802.html)

### 3. 学習ツール「5分でできる！情報セキュリティポイント学習」新版を発表

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、2月22日(木)に学習ツール「5分でできる！情報セキュリティポイント学習」に新しいコンテンツを追加しました。

「5分でできる！情報セキュリティポイント学習」は、従業員が情報セキュリティ対策を e-Learning 形式で学習できるツールです。また、ネットワークに繋がらない環境でも学習できるように PDF 版も提供しています。

新しいコンテンツは、2016年11月に公開した「中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン」の「5分でできる！情報セキュリティ自社診断」に基づいた学習内容です。学習項目は合計25項目あり、項目ごとの学習時間は5分程度です。毎日1項目5分ずつ25日間(約1ヵ月)で自社診断に基づく対処法についてひとつおりの項目を学習できます。

「5分でできる！情報セキュリティポイント学習」新版の詳細については、次の URL をご覧ください。

[https://www.ipa.go.jp/security/vuln/5mins\\_point/index.html](https://www.ipa.go.jp/security/vuln/5mins_point/index.html)

### 4. 脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」と脆弱性対策情報共有フレームワーク「MyJVN」の機能強化版を公開

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、2月21日(水)に脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」と脆弱性対策情報共有フレームワーク「MyJVN」の機能強化版を公開しました。

主な機能強化の内容は以下のとおりです。

---

<sup>2</sup> FA:ファクトリー・オートメーション

- (1) JVN iPedia の検索機能強化  
検索速度の向上、CVSSv3<sup>3</sup>値での検索が可能
- (2) MyJVN API の機能拡張  
CVSSv3 値や注意警戒情報を取得可能とする API を追加
- (3) XML ファイルによる脆弱性対策情報、ベンダー、製品一覧の提供  
JVN iPedia に登録されている情報を XML ファイルで取得可能

なお、今回の機能強化に併せてセキュリティ強化のため SSL 暗号化通信にも対応しております。

「JVN iPedia」と「MyJVN」機能拡張版の詳細については、次の URL をご覧ください。

- ・脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」  
<https://jvndb.jvn.jp/>
- ・脆弱性対策情報共有フレームワーク「MyJVN」  
<https://jvndb.jvn.jp/apis/myjvn/>

## 5. ENISA 発行文書の概訳「スマート空港のセキュリティ」を公開

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、2 月 23 日（金）に ENISA<sup>4</sup>発行文書「Securing Smart Airports」の概訳「スマート空港のセキュリティ」を公開しました。

本資料は、従来の空港にスマートコンポーネント（IoT 機器）が加わるスマート空港の運用と旅客の安全のため、航空交通管理（ATM）システム、搭乗券無人発行機（Kiosk）、手荷物搬送システム、飛行場灯火システム等に対するサイバー攻撃による障害や事故の発生を防止し、空港システムのセキュリティ及びレジリエンスを向上させることを目的としたものです。

本資料では、スマート空港を構成する資産、想定される脅威、攻撃シナリオ、対策（グッドプラクティス）、課題及びセキュリティ強化のための提言の概要を日本語でまとめています。

ENISA 発行文書の概訳「スマート空港のセキュリティ」の詳細については、次の URL の「海外における取組み」をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/controlsystem/>

---

<sup>3</sup> Common Vulnerability Scoring System, V3 Development Update  
<http://www.first.org/cvss/v3/development>

<sup>4</sup> 欧州ネットワーク情報セキュリティ機関

## 6. 重要なセキュリティ情報（2月）

（担当：セキュリティセンター）

IPAでは、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報<sup>5</sup>」を公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA情報発信では2013年12月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身のPCやシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください

2月は、「緊急<sup>6</sup>」2件、「注意<sup>7</sup>」3件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

## II. ITシステムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

### 1. 「ソフトウェアジャパン2018」への出展

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPAは、2月2日（金）に一橋大学 一橋講堂（東京都千代田区）にて開催された「ソフトウェアジャパン2018～ITが変える社会・生活・仕事～」に出展しました。

一般社団法人情報処理学会<sup>8</sup>が主催する本イベントでは、ITに関わる実務家を対象に、ビッグデータ、IoT、AI等に関する講演及びパネルディスカッションが数多く行われました。

IPAは、「つながる世界の安全に向けたIPAの取組み」、「IoT時代のシステム開発アプローチ～システムズエンジニアリングの薦め～」、「複雑システムの安全設計へのチャレンジ～システム理論に基づく新しい安全解析法STAMP/STPA<sup>9</sup>の

<sup>5</sup> 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

<sup>6</sup> 「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

<sup>7</sup> 「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

<sup>8</sup> コンピュータとコミュニケーションを中心とした情報処理に関する学術、技術の進歩発展と普及啓蒙を図り、会員相互間及び関連学協会との連絡研修の場となり、それにより学術、文化ならびに産業の発展に寄与することを目的とした一般社団法人。

<sup>9</sup> STAMP/STPA(System Theoretic Accident Model and Processes / System Theoretic Process Analysis) :マサチューセッツ工科大学(MIT)の Nancy Leveson 教授が提唱した「アクシデントはシステム構成要素間の相互

実践～」の3つのテーマについて講演しました。併せて、各テーマに関するパネル展示も行いました。

『『ソフトウェアジャパン 2018』への出展』の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/events/20180202.html>

## 2. 「ET・IoT Technology 名古屋」を共催

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPA は、2月16日(金)にウインクあいち(愛知県名古屋市)にて、一般社団法人組込みシステム技術協会(JASA<sup>10</sup>)が主催する「ET・IoT Technology 名古屋」を共催しました。

本イベントでは、モビリティ、FA、ロボティクス等、様々なIoTシステムや組込み機器の設計・開発・サービス等に携わる方を対象に、セーフティ&セキュリティ、産業IoT、IoT×AI、自動運転用半導体設計、新たな検証システム等のテーマでの講演が行われました。

IPA は、安全・安心をテーマに、IoT、STAMP/STPA、Safety2.0といったキーワードを交えながら、最新情報を紹介する講演を行いました。また、現在開発を行っている STAMP 支援ツール「STAMP Workbench」のデモも併せて行いました。

IPA は、今後も広く事業成果の普及を推進し、安全・安心な IoT 社会の実現に貢献していきます。

『『ET・IoT Technology 名古屋』を共催』の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/events/20180216.html>

## 3. 「システム再構築を成功に導くユーザガイド」第2版を公開

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPA は、「システム再構築を成功に導くユーザガイド～ユーザとベンダで共有する再構築のリスクと対策～」の第2版を2月26日(月)に公開しました。

---

作用から創発的に発生する」という理論に基づく新しい安全性解析手法。

<sup>10</sup> JASA(Japan Embedded Systems Technology Association) :組込みシステムにおける応用技術に関する調査研究、標準化の推進、普及及び啓発等を行うことにより、組込みシステム技術の高度化及び効率化を図り、それにより日本の産業の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とした一般社団法人。



本書は、問題が起こりやすい既存システムの再構築に特化して、システム開発における企画・要件定義といった上流工程で、利用者が求める機能や安全性・セキュリティ等の条件を漏れなく文書化（要件定義）し、システムに確実に反映するためのガイドブックです。

今回の第2版は、第1版では対象外としていた再構築のパターンや現行システムで担っていた業務を新システムで継続して実施するためのポイント等、約40ページの加筆修正を行いました。

IPAでは、システム再構築に関するノウハウを説明したガイドブックの普及を通じ、システム再構築におけるトラブル防止に向けた活動を継続していきます。

『システム再構築を成功に導くユーザガイド』第2版を公開の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/reports/20180226.html>

#### 4. 「デジタル変革に向けたITモダナイゼーション企画のポイント集」を公開

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPAは、2月14日（水）に小冊子「デジタル変革に向けたITモダナイゼーション企画のポイント集」を公開しました。

本小冊子は、経営層やシステム部門長、プロジェクトマネージャー等に向けて、システム再構築で陥りやすい事象を「落とし穴」として示し、トラブルを回避してプロジェクトを安全かつ確実に進めるためのポイント集です。

IPAでは、本小冊子の普及とともに、これを通じて2月26日（月）に公開した「システム再構築を成功に導くユーザガイド～ユーザとベンダで共有する再構築のリスクと対策～」第2版の普及を図り、システム再構築におけるトラブル防止に向けた活動を継続していきます。

『デジタル変革に向けたITモダナイゼーション企画のポイント集』を公開の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/reports/20180214.html>

#### 5. 「組込みソフトウェア開発向けコーディング作法ガイドESCR [C言語版] Ver.3.0」を公開

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPAは、2月15日（木）に「組込みソフトウェア開発向けコーディング作法

ガイド ESCR [C 言語版] Ver. 3.0」を公開しました。

本書は、自動車や家電製品をはじめとする多くの製品の組み込みソフトウェア開発において、読みやすくエラーが発生しにくいソースコードを書くために、コーディングする際の注意事項やノウハウをルール集としてまとめたものです。

昨今の IoT の進展に伴い、組み込み製品においてもセキュリティを意識した実装が強く求められるようになってきました。このような要望に応えるため、今回の改訂では、コーディング時におけるソフトウェアの脆弱性作りこみを回避できるよう、主にセキュアコーディングに関する追加を行いました。

IPA では、本書の普及を通して、安全・安心な組み込みソフトウェアを効率的に開発できる環境づくりに貢献していきます。

『組み込みソフトウェア開発向けコーディング作法ガイド ESCR [C 言語版] Ver. 3.0』を公開」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/reports/20180215.html>

## 6. 「先進的な設計・検証技術の適用事例報告書 2017 年度版」を公開

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPA は、「先進的な設計・検証技術の適用事例報告書 2017 年度版」を 2 月 28 日（水）に公開しました。

本報告書は、複雑化・高度化するシステムを迅速、かつ高信頼に開発するための先進的な「設計・検証技術」を開発現場で実践した成功事例（ベストプラクティス）を集めたものです。

2017 年度版では、「信頼性の確保」のみに留まらず、API (Application Programming Interface) や開発ツールを活用した「変化する要求への柔軟な対応」や「開発速度と品質の両立」を可能にする技術や手法を積極的に紹介しています。

IPA では、これらの先進的な技術や手法が多くの企業・開発現場で活用されることで、高い信頼性と生産性が確保されたソフトウェア開発の実現に繋がることを期待しています。

『先進的な設計・検証技術の適用事例報告書 2017 年度版』を公開」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/reports/20180228.html>

## 7. SEC セミナー開催報告（2月）とSEC セミナー開催案内（3月）

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPAは、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向等を紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

2月は、次の日程で実施しました。

- ・システム再構築を成功に導くための手法選択と計画立案～再構築におけるリスクの正確な把握と対策の合意手順を解説～（2月15日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180215.html>

- ・障害事例から学ぶ設計ミスの防止方法（組込みシステム編）～障害未然防止のための設計知識の整理手法紹介（演習付き）～（2月23日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180223.html>

- ・安全・セキュリティ技術のフロンティア～STAMP/STPAのセキュリティ適用に向けて～（2月27日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180227.html>

- ・組込みソフトウェア開発の現場に役立つメトリクスとは？～定量データ活用推進ワークショップセミナー～（2月28日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180228.html>

3月は、次の日程で開催を予定しています。

- ・事例から学ぶITサービス高信頼化へのアプローチ（第4回）～障害事例から根本原因を分析し教訓化するプロセスを学習～（3月7日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180307.html>

- ・IoT時代のシステム開発の課題に立ち向かう～システムズエンジニアリング導入の薦め～（3月15日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180315.html>

- ・上流工程強化セミナー in 大阪～システム再構築を成功に導くために～（3月17日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180317.html>

- ・システムの信頼性向上に向けたソフトウェア開発定量管理の勧め～基本となる考え方（ベンチマーキング）と企業での導入事例を紹介～（3月23日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180323.html>

- ・失敗しない要件定義の勘どころ～ビジネス要求を正しくシステム化要件として定義するポイントの解説～（3月28日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180328.html>

### Ⅲ. 未来のIT社会を担う人材の育成とビジネス支援・技術開発促進

#### 1. アジア共通統一試験推進コア人材育成事業「Top Gun プログラム」を実施

（担当：IT人材育成企画部）

IPAは、2月19日（月）～28日（水）の10日間、アジア共通統一試験（ITPEC試験）のトップ合格者等13名を招聘し「Top Gun プログラム」を実施しました。

Top Gun プログラムは、アジア各国の優秀な人材が日本のIT企業等でのワークショップ参加を通じ、日本のIT企業特有の商慣習、開発現場の課題及び解決法等を学ぶとともに、日本企業との交流を図りました。

本プログラムは、ITPEC試験における特に優秀な人材を、同試験のさらなる発展等に向けた推進リーダー、ITPEC各国の試験実施機関と日本のIT企業との連携体制構築等に係る推進役として育成することを目的としています。

プログラム最終日には、富田理事長が「ITPEC アンバサダー」の任命証及び徽章を授与しました。本事業を通じてITPEC試験合格者及びITPEC試験実施機関と我が国IT企業との連携が進むことを期待します。

#### 2. 「第三回地方版IoT推進ラボ担当者会議」を開催

（担当：イノベーション人材センター）

IPAは、2月15日（木）にホテルメトロポリタンエドモント（東京都文京区）にて「第三回地方版IoT推進ラボ担当者会議」を開催しました。

IPAはIoT推進ラボ<sup>11</sup>の支援機関として、経済産業省とともに自治体等地域におけるIoTプロジェクト創出のための取組みを「地方版IoT推進ラボ」として選定し、活動支援を実施しています。その一環として、ラボ間の相互交流等の促進を目的に「地方版IoT推進ラボ回担当者会議」を適時開催しています。

今回は、経済産業省、総務省及び各地域の先進的な活動事例についての紹介・意見交換を行いました。当日は、選定74地域のうち62地域100名以上の方が出席しました。

<sup>11</sup> IoT推進ラボは、IoT推進コンソーシアムの下に設置され、ラボ3原則（成長性・先導性、波及性（オープン性）、社会性）に基づき個別のIoTプロジェクトを発掘・選定し、企業連携・資金・規制の面から徹底的に支援するとともに、大規模社会実装に向けた規制改革・制度形成等の環境整備を行います。

「第三回地方版 IoT 推進ラボ担当者会議」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://iotlab.jp/local/office-iot-8/>

### 3. 「日経 BP IoT Japan 東京 2018」への出展

(担当：イノベーション人材センター)

IPA は、2 月 20 日(火)～21 日(水)に開催した日経 BP 社主催の「IoT Japan 東京 2018」(会場：東京都港区 ザ・プリンスパークタワー東京)にて、「先進的 IoT プロジェクト支援事業」と「地方版 IoT 推進ラボ」の展示及びセミナーを実施しました。

「先進的 IoT プロジェクト支援事業」では、IoT 推進ラボにおける具体的なプロジェクト創出支援の一翼を担い、優れた IoT プロジェクトに対して資金支援とメンター伴走支援を行ってきました。当日は、2 年間 16 プロジェクトの総括成果報告会として、9 プロジェクトの展示をするとともに、成果事例セミナーでは、「製造・農業」、「教育・保育」、「健康・救命」、「e コマース・エンターテインメント」の 4 分野 8 プロジェクトの事業モデルの実証成果や今後の事業展開について紹介しました。

また、「地方版 IoT 推進ラボ<sup>12</sup>」については、関東圏 7 地域の取組内容の展示と 3 地域(山梨県、長野県川上村、静岡県藤枝市)の代表者が重点的な活動や課題、今後の地域発展の可能性等についてパネル討論を行いました。

展示には多くの来場者があり、各セミナー会場の参加者も定員を超え、盛況のうちに終了しました。

「先進的 IoT プロジェクト支援事業」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/iot/index.html>

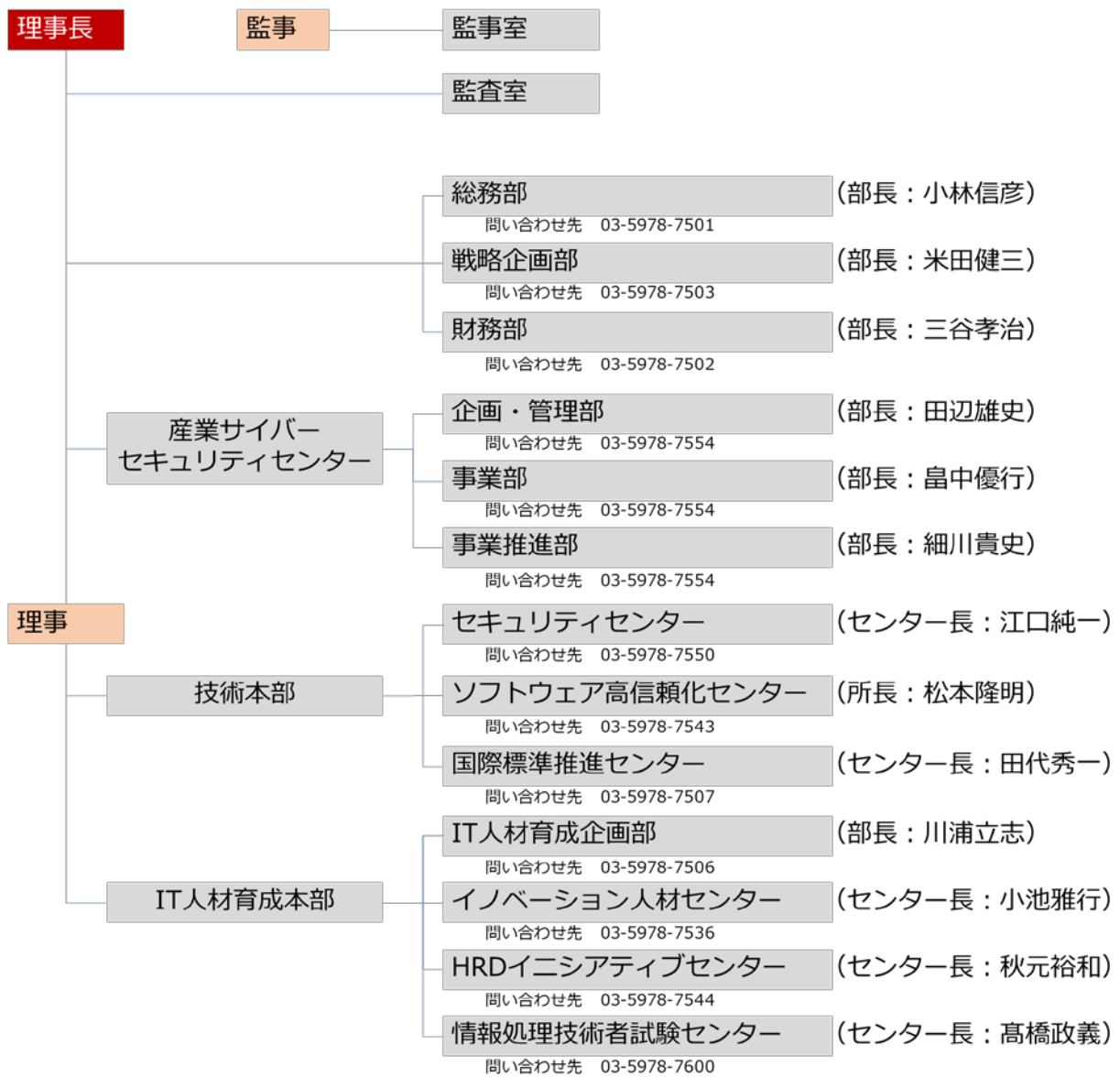
「地方版 IoT 推進ラボ」の「IoT Japan 2018」出展の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://iotlab.jp/local/office-iot-6/>

---

<sup>12</sup> IPA は経済産業省とともに自治体等地域における IoT プロジェクト創出のための取組みを「地方版 IoT 推進ラボ」として選定し、活動支援を実施。

●IPA 組織図



本書に関するお問合せ先  
 戦略企画部 広報G 山北・稲垣  
 〒113-6591  
 東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号  
 文京グリーンコートセンターオフィス  
 TEL : 03-5978-7503  
 E-mail : pr-inq@ipa.go.jp